

外科治療を行った脳卒中患者に対する早期リハビリテーションの有効性

須田恭平¹⁾ 中島崇暁¹⁾ 風晴俊之¹⁾ 美原盤²⁾

1) 脳血管研究所美原記念病院 リハビリテーション科

2) 同 院長

[目的]外科治療を行った脳卒中患者に対する術後早期のリハビリテーション(リハビリ)の有効性について検討した。

[対象]急性期病棟に入院した脳卒中患者 1469 名を対象とし、手術あり群、なし群に分類し、さらにリハビリ開始時の FIM で重症、中等症、軽症に分類した。重症度ごとにリハビリ実施量/日、退棟時 FIM、在棟日数を 2 群間で比較した。

[結果]リハビリ実施量は両群とも 5 単位/日と有意差はなかった。退棟時 FIM は全ての重症度において両群間に有意差はなかった。在棟日数は重症度で両群間に有意差を認めたが、その差は重症においても 7 日以内であった。

[考察]術後は活動の制限が強いられることが多く、在棟日数が長期化しやすい。しかし、手術患者に対して積極的にリハビリを実施することにより在棟日数を抑制し、している ADL の確保につながる可能性が示唆された。脳卒中患者において、術後早期からの積極的介入は有効である。